1992年6月5日第3種郵便物承認　ＫＴＫ増刊通巻第5709号　　2026年6月26日発行（毎月1回25日発行）

KTK あらぐさ通信

NO.124

後援会費郵便振替口座
０１０７０－７－３２１４５
あらぐさ後援会

編　　集　　あらぐさ後援会
編集協力　　社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813　京都府長岡京市井ノ内広海道42－3
TEL 075-953-9212　FAX 075-953-9215



ご支援ありがとうございます

24時間テレビ48「愛は地球を救う」福祉車両寄付を申し込んでいたところ、福祉車両(リフト付きバス)をご寄贈いただくことができました。

４月、満開の桜の下で届いた福祉車両の贈呈式を行いました。「これからこの車に乗れるよ」と聞いた利用者さんの目がキラリ！期待を胸に、新しい車両を囲み演奏を楽しみながら、みんなで喜び合いました。

これから送迎に、活動に、大切に使わせていただきます。

全国のたくさんの方々からの支援、ご寄付に心よりお礼申し上げます。（坂本）



「みんなおいでよ～あらぐさひろば」開催！



祝40周年！　やさしい街づくりを応援！　みんなで楽しく交流しましょう

日時：10/3（土）11：00～14：00

会場：障害福祉センターあらぐさ

あらぐさ製品販売・ステージ発表・キッチンカー・ミニバザーなど

＜共催＞あらぐさ後援会・あらぐさ会・あらぐさ福祉会

「無認可あらぐさから法人～今、そしてココカラ」

―40 周年を迎えて―

1986 年３月に光明寺前の小さな借家を借りて無認可「共同作業所あらぐさ」がスタートしてから、40 周年を迎えることができました。これまで実に多くの地域の皆様から物心両面に渡るご理解とご支援をいただき、行政の方々にはご理解とご指導をいただきました。心より厚く御礼を申し上げます。

無認可時代の 19 年間は、まさに「ぼろは着てても心は錦」と言わんばかりに、理念を掲げ「地域へアピール」「笑顔で」「要求は値切らず」をモットーに、しかし日々は運営資金作り、借家や車両の確保、職員の給料保障などに、ご家族も、職員も、支えてくれた関係者や団体の方々も、まさに奔走に奔走を重ねた時代でした。

行政からの土地貸与により法人化への道がようやく開き、2004 年に念願の法人取得、2005 年に現在の障害福祉センターあらぐさが開所されました。今は７つの事業所を運営する社会福祉法人あらぐさ福祉会として、職員総勢１３０名が地域福祉の担い手となり、障害のある方たちの豊かな日中活動と安心できる地域生活の支援を組み立てようと、日々懸命に奔走する日々です。

ここ数年、高齢化によるご利用者の状態の変化や家族介護の限界、全国的な福祉職員の応募者激減、国の介護報酬の不安定さなど、障害者福祉はまだまだ厳しい状況が続いています。課題は山積みですが、４０年のこれまでを振り返り、「どんなに障害が重くても、学び育った地域で暮らし続けたい」という願いを繋いでいくために、「ココカラ」新たな思いで踏み出していきたいと心から思います。

今後とも、皆様のご理解ご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

2026 年６月

社会福祉法人あらぐさ福祉会

理事長　角　攝子

無認可時代



３軒長屋の１角でスタート。夜店で販売中



笑顔の日々・・けれど狭すぎる！



外へ外へ。山でカラオケ。



バザー。地域の応援団が大集合でした

あらぐさ、40年の歩み



６月６日(土)、あらぐさ後援会総会の第２部で、“リレートーク”「無認可あらぐさから法人～今、そしてココカラ」を職員たちが語りました。
今回は「40年の歩み」を掲載します。次号では、４人の職員の「今、そしてココカラ」のリレートークをお届けします。

誕生期

1984年「乙訓手をつなぐ親の会」総会で「乙訓に共同作業所をつくる会」の結成を決定。
５月に準備会が発足、事務局体制を整え活動を開始しました。
バザー・古紙回収デー・「この子を乙訓で育てたい」アピール・行政への要望書や請願活動・なかまたちのコンサートなどを繰り広げ、長岡京市粟生光明寺前の借家を借りました。
1986年３月、４人の利用者と職員３人の共同作業所あらぐさが開所しました。

無認可時代

共同作業所
あらぐさ
光明寺前→彦林→下海印寺→久貝と借家を移転

移転のたびに、少しずつ活動空間が広くなり、さをり織り、クッキー製造が始まりました。

京都府の重症心身障害者通所援護事業を受け、共同作業所あらぐさから分かれ、１９９０年以降、さわらびの家・さくらんぼの家を開所。
利用者が増えるたびに借家を増やし、長岡京市の友岡・調子・太鼓山・城の里、向日市上植野の５軒の借家で、地域資源を最大活用しようと、季節を取り込みながら外へ外への活動を繰り広げました。

1986年発足した「あぐさをささえ乙訓に居住施設をつくる会」は、2002年「あらぐさの法人化を実現する会」に発展し、署名活動、行政交渉を展開。
お母さんたちを中心に、広く市民に訴え、福祉の店、バザー、積立金など資金作りにも大きな力を発揮。無認可施設の運営費と法人化のため資金をつくる大きな原動力になりました。
法人化と同時に「実現する会」は「あらぐさ後援会」に引き継がれました。

社会福祉法人 あらぐさ福祉会

長岡京市の土地貸与と資金（国庫補助・自己資金・借入金）調達により国に申請。
2004：念願の社会福祉法人を取得。生活ホームかざぐるま（現ケアホームかざぐるま）を法人運営に移行。
2005：施設建物が竣工し、共同作業所あらぐさ、さわらびの家、さくらんぼの家は、現在の生活介護・就労継続支援Ｂ型事業「障害福祉センターあらぐさ」に移行しました。
2009：サポートセンターあらぐさが開設。新たな地域生活支援のスタートです。
中長期事業計画策定しケアホームづくりに着手。後援会を中心に大募金活動に取組む
2012：ケアホームいろどり・ショートステイいろどりが開設。
2013：相談支援センターみちくさが開設され、現在７つの事業所を運営。

2009～2015
中長期事業計画
・ケアホームいろどりショートステイ開設
など

2018
活動室の拡張
重度重複利用者の居室新築

2019～2022
新事業計画
「その人の人生を考えるプロジェクト」

2024～
「あらぐさ事業計画2024」を更に検討推進

各グループからの報告



イチゴの収穫をしました（Ｃグループ）



４月末、Ｃグループで育てたイチゴの収穫を行いました。メンバーさんたちが、しっかり育った真っ赤な大粒イチゴにハサミを向けチョキン。周りに甘い香りが漂って、この写真をご覧下さい！表情がユルリン、何ともいえないこの笑顔。そして、「収穫したよ」と、とっても嬉しそう。もちろん、その場でパクリ。イチゴのあまーい香りと味をその場で楽しまれていました。（佐名木）



「西山アトリエ村展」（ワークセンター）





ＧＷの５月３日、４日に『第37回京都西山アトリエ村展』に参加させていただきました。当日、天候は優れませんでしたが、様々なワークショップが用意されており、子どもたちの賑やかな声がたくさん聞こえてきました。

あらぐさからは、さをり織りを始め、草木染めやフェルト等のハンドメイド製品を販売しました。健幸スポットのびのび苑様や花子百貨店の販売でお会いしたお客様との再会等、たくさんの出会いがあった販売となりました。（三浦）







『スヌーズレン体験』（Ａグループ）

Ａグループでは、余暇活動の時間にテントとカラーボールを使ってスヌーズレン体験をしました。テントに入ったらごろんと横になり、身体を職員に預けてリラックスされている人や、目を細めて眩しそうにカラーボールを見ておられる人、光や色を目で追いながら笑っている人など、それぞれ新しい活動を楽しまれていました。今年度もみんなで楽しめる活動にたくさん取り組んでいきます！　（廣瀬）







「今年もメンマ作りに挑戦！」（デイ２）

昨年から始めたメンマ作りを今年も行いました。メンマ作りができると分かると皆さん大喜びです。メンマ作りは幼竹の皮むき、部位ごとの切り分け、塩のもみ込みをして、樽で数ヶ月寝かせて完成させます。昨年の経験もあり皆さん自信を持って作業されていました。できあがるのを楽しみにされています。（平野）

きりしまツツジ（Ｂグループ）

長岡天満宮へきりしまつつじを見に行きました。良い天気の中きれいに咲いた花の道を歩きました。４月から職員体制も変わり、嬉しいながらも少し緊張していた利用者さんでしたが気持ちの良い気候の中、リラックスした表情のおニ人。話も弾み、楽しく過ごしたひとときでした。(坂本)





移動パン販売　(いろどり)



ケアホームいろどりでは、毎週水曜日に移動パン販売のハニーベーカリーさんに来てもらっています。きっかけはパン好きな利用者さんがいろどりに来る楽しみの１つになればということで始めました。火曜日に電話をかけパンを注文し、水曜日の夕方にいろどり門前に来てくれます。

パンを買うだけでなく、「元気ですか」「今日はどこに行ってたんや」など、販売員さんとの他愛もない会話も楽しみの１つとなっています。

（坂本憲）

２０２５年度　会員加入・更新・支援募金　ありがとうございました。

（２０２５年１２月１６日～２０２６年３月３１日　敬称略　順不同）

青嶋芳文　浅倉静代　浅輪信子　厚地芳美　粟田士郎　粟田　紀江　阿波谷陽子　池田恭子　池田廣子　池田弥保子　井古テル子　石井憲生　石川昌代　五十棲福男　伊藤憲一　因幡広和　井上敏子　井上治夫　井上はる奈　今井和子　今井正　今井里香　岩佐瑞紀　上田和美　上野志保子　浦さち子　江川哲一般社団法人江後経営　大江恵子　太田政喜　大槻さつき　大月裕子　大橋生人　大橋祐子　大畑京子　岡田和世　岡田多賀子　小川真寿美　特定非営利活動法人乙訓介護サービス　乙訓地区労働組合協議会　小野田照代　掛川あづさ　医療法人社団片岡診療所　門野陽子　金森たえ子　加畑恵子　鎌田桂子　河合隆平　川瀬明子　河村雅之　岸陽子　桐山俊宏　金原道雄　草野廣　窪島敏子　上坂愛子　後藤あゆみ　佐伯敏子　坂本憲哉　佐々木康二　佐々木則子　佐藤敦子　佐野顕治　佐野さかえ　柴田和泉　嶋本芳輝　嶋本美恵　住田珠江　瀬川信也　瀬川良介　関正雄　高千穂空　鷹野安子　高橋恭三　高橋すなお　高橋征吾　高橋明美　髙橋光子　竹中哲夫　武山彩子　多田和子　田中洋子　（有）タニグチ谷口忠行　谷早苗　俵福造　長誠一郎　長理恵子　時田麻里　冨島ますみ　長岡天満宮　中川慶子　（株）長岡美装社　中嶋俊行　長島里香　中村澄子　中村礼人　夏川久子　夏原典子　西岡伸也　西田浩子　西野由美子　西村秀晴　西村宗昭　（株）ハウジングステーション代表取締役山下吉昭　橋爪早苗　波多由紀子　馬場かね子　濱川君代　原木とし子　はれの樹ｽﾍﾟｼｬﾙﾆｰｽﾞﾃﾞﾝﾀﾙｸﾘﾆｯｸ大橋瑞己　ぱんだ企画　平岡芳子　平田喜洋　平塚洋子　平野美和　平野元子　昼神仁美　廣瀬愛　福井共子　福祉保育労あらぐさ分会　福島ケイ　藤原啓子　セルフィーユ　村上泰之　堀江幸男　前田知臣　前田仁　桝井良子　松井亜矢子　松居正利　松岡稔　岩倉美希　松島朱美　松野享　松間卓　松村昭子　松本　英里　松本美津男　松山幸次　松山雅子　真殿尊子　三浦次郎　造酒錦代　水口秋子　三谷文菜　道場恵美子　南ゆかり　南川聡美　宮嶋均　宮嶋節代　宮田啓子　宮本史朗　村井悦予　村野英介　毛利靖子　森垣美知子　森川浩世　森下洋子　八木弘行　薮見富喜男　山口都子　山田陽子　山中繁　（株）ゆう建築設計事務所代表取締役岩崎直子　郵政産業労働者ユニオン向町支部　横川和男　横川喜美江　吉永雄司　吉永和子　脇田暢子　渡辺裕子　記名なし２名　匿名希望２０名

皆様からの会費は、あらぐさ通信・後援会事業に、
支援募金は、あらぐさ福祉会へのご寄付に使わせていただきます。

２０２６年度も、会費納入のほど、よろしくお願いたしします。

2026年度 あらぐさ後援会総会報告

２０２６年６月６日（土）　１３：１５より、障害福祉センターあらぐさ１階ホールにて、あらぐさ後援会総会が開催されました。
たくさんのご参加ありがとうございました。

2025年度事業報告・決算報告・監査報告

1　2025年度　事業報告

３つの専門部(事業部・広報部・組織部)を中心として、あらぐさ福祉会の事業への支援と、「誰もが安心して暮らし続けることができる地域づくり」を支援することを目的として、次の活動を展開しました。

１．後援会イベント「みんなおいでよーあらぐさひろば」について

２年ぶりの開催となりました。秋晴れの下、色々なステージ発表やさをり織りのファッションショーなどで盛り上がりました。たくさんのご協力、ご参加ありがとうございます。

２．事業部活動

あらぐさ支援募金件数は２８９件、募金額は 192 万 6600 円。多くの支援者のご協力をいただき、あらぐさ福祉会へ施設整備支援の寄付をいたしました。
能登支援被災地支援の取り組みとして、能登被災地支援のつどいを開催。得られた収益は能登支援として「きょうされん石川支部」に贈りました。

３．広報部活動

「あらぐさ通信」を３回発行（№１２１～１２３）。印刷や住所のラベル貼り、封入作業など、障害福祉センターあらぐさ利用者の皆さんに発送作業を担っていただいています。利用者さんのスナップ写真や地域生活の紹介、総会や法人からの報告、あらぐさひろばの模様、日々の活動、作品の紹介（グループ別）、作品展の告知など掲載。

４．組織部活動

会員数は 394 団体個人、会費合計 58 万 5000 円でした。
多くのみなさんに支えて頂きました。

2　2025 年度あらぐさ後援会決算報告及び監査報告

自：2025 年４月１日　　至：2026 年３月３１日

収入		支出	
前年度繰越金	124,560	あらぐさ通信経費	222,944
会費収入	585,000	事業費	126,978
事業収入	45,000	事務費	82,932
利子収入	191	予備費	0
		あらぐさ福祉会へ寄付	100,000
計	754,751	計	532,854

収支差額　221,897 円は　2026 年度に繰り越します。

あらぐさ福祉会への寄付金額 2,026,600 円
内訳：後援会運営費より　100,000 円
　　あらぐさ支援募金より　1,926,600 円

2026 年４月 20 日、会計監査の内藤敬子さん、垣内良美さんにより監査を実施。
適正に処理されていることが報告されました。

2026 年度事業計画・予算案

1　2026 年度　事業計画

あらぐさ後援会では、無認可共同作業所の立ち上げに込められた思いと、法人の理念の実現を支える為に、今年度も地域に発信していく役割の一翼を担っていきたいと考えています。

1．後援会イベント

第９回「みんなおいでよーあらぐさひろば」を開催
日程：２０２６年１０月３日（土）　１１時～１４時
※詳細は表紙へ

地域の諸団体に参加を呼びかけ、共に楽しい「あらぐさひろば」をめざします。

２．事業部活動

（１）あらぐさ支援募金の取り組み
「くらしの場」づくりの施設整備を支援することを目的に、「あらぐさ支援募金」を訴えます。
あらぐさ支援募金１口　1,000 円
（２）後援会独自の資金づくりの取り組み：後援会独自で物品販売等に取り組み、地域に支援を発信します。
（３）きょうされんの活動を支援します。

３．広報部活動

「あらぐさ通信」の発行（年間３回）。後援会の活動とあらぐさの事業や実践を広く市民の方々に知っていただくための広報誌として発行します。

４．組織部活動

会員ならびに支援募金の協力者を合わせて、５００名を目標にめざします。

2　2026 年度　あらぐさ後援会　予算書

自：2026 年４月１日　　至：2027 年３月３１日

収入		支出	
前年度繰越金	221,897	あらぐさ通信経費	230,000
会費収入	600,000	事業費	250,000
事業収入	30,000	事務費	100,000
		予備費	171,897
		あらぐさ福祉会へ寄付	100,000
計	851,897	計	851,897

2026 年度あらぐさ後援会　役員（敬称略）

会　　長：　大橋瑞己
副 会 長：　今西さよ子　増田康夫
事務局長：　西岡伸也
会　　計：　安武真理
役　　員：　和田由起子・松村誠・伊地知有華
　　真殿尊子・立山純治・坂本靖子

会計監査：　内藤敬子・垣内良美

あらぐさと私

社会福祉法人あらぐさ福祉会

監事　上村義美　さん

（かみむら　よしみ）



あらぐさとの歩み

あらぐさ創設 40 年、おめでとうございます。

あらぐさの理念である「どんなに障害が重くても、乙訓でこの子を育てたい、暮らさせたい」を半世紀近く守り続け、実践されてきたことに敬意を表します。

私とあらぐさとの関わりは、長岡京市障害福祉課の職員に配属されてからです。そのころは障害者の支援は措置の時代で、支援費制度（2003 年度施行）の移行に向けて準備をしていました。また乙訓地域の障害者施設は無認可の施設も多く、養護学校（支援学校）の卒業生の受け入れは、どこの施設も定員を超える状況が続いていました。このような中、念願であるあらぐさの法人化も進んでいきました。

2003 年度に支援費制度がスタートし、障害者の支援は措置から契約になり、サービスが選べるようになったものの、社会資源はまだまだ十分でなく、マンパワーも不足していました。そんな中でも障害当事者、保護者、各事業所の職員、市の職員など、関係者で、今できる支援は何かを皆で考えていたように思います。行政とも距離は、今より近かったのではないかと思います。

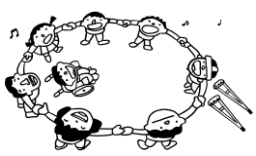
また、無認可であってもグループホームの開設ができるように、あらぐさの保護者の皆さんと一緒に京都府に要望に行ったこと、先進的な運営をされている施設を見学に行ったことなど、短期間の関わりではありましたがたくさんの思い出があります。

私は、障害福祉の経験が全くない素人でしたが、関係者の皆さんで育てて頂き、長い公務員生活の中でも、障害者福祉の仕事がいちばん楽しく充実していたと思っています。

長岡京市を退職後、2010 年から監事など、微力ながらあらぐさの運営に関わらせて頂いていますが障害福祉を担当していた時代とは障害者を取り巻く環境は大きく変わったことを実感します。高齢化による家族介護の限界、介護の高度化、職員の確保など課題が山積みしています。

このような中でも、あらぐさの職員は力を合わせて何が一番ベストな支援なのかを考え実践しています。常に利用者を中心におき、更に介護家族の生活も大切にしている姿勢を感じます。また日常の支援の中で問題があったとしても、職員は常に報告し合い解決に向けて話し合っていることに、常に感心させられます。

これから先も、ずっとあらぐさがあらぐさであり続け、職員があらぐさの職員であることに誇りを持ち、利用者が安心して暮らし続けていけることを願います。



http://www.aragusa-fukushi.jp/

1992 年 6 月 5 日　第 3 種郵便物承認（毎月 1 回 25 日発行）2026 年 6 月 26 日発行
ＫＴＫ増刊通巻第 5709 号　発行所　京都障害者団体定期刊行物協会
〒604-8804　京都市中京区壬生坊城町 48-6　京都社会福祉会館 2 階
京都難病連内　発行人　高谷修　頒価 50 円（購読料は会費に含まれています）